

杉並区立西田小学校 第8回 学校運営協議会記録

- ・日時 平成30年12月17日（月） 16時30分から17時40分
- ・場所 杉並区立西田小学校第二図工室
- ・出席者 諏訪会長、【委員】小堂校長、中澤、半澤、望月、渡邊、目黒、檜枝（記録）
【事務局】新井副校長
- ・配布資料 資料1 平成30年度第8回学校運営協議会次第
資料2 平成30年度第7回学校運営協議会メモ
資料3 学びを深めるための対話型授業の工夫（北杜市立須玉小学校）
資料4 杉並区「教育調査」小・中学校保護者用
資料5 桃井第四小学校学校運営協議会「学校を面白くする会議」

1 会長挨拶

- ・職務上いろいろな小学校を見ているが、学校のレベルの差が広がっていると感じる。意欲のある校長・副校長等の管理職集団がいる学校では、新しい教育を意欲的に取り込んでレベルが上がっている。そうでない学校は旧態依然の教育を続けて停滞している。
- ・成功事例として、先日見学した秋田県大館市立花岡小学校を紹介する。以前は銅山で栄えていた町が今はさびれて人口減少して、生徒数は100人以下に減ってしまっている。校長先生が非常に意欲的で、チャレンジ精神を子供につけさせる取り組みをしていた。そのため、子供がやりたいことを、なるべく大人が手を出さないし手伝わないで、子供たちで取り組み解決させている。たとえば、子供たちが「道路に花を植えてきれいにしたい」と言えば、花を植えるプランターの用意からすべて自主的に解決させている。すると、子供たちの自主性がはぐくまれて、校長が育てたい「芯のある子ども」に育ってきている。
- ・もう一つの事例として、山梨県北杜市立須玉小学校の取り組みを紹介する（資料3）。西田小も負けていられないと感じている。資料を読んで、このような良い事例を参考にして、よりよい授業展開・学校経営を行ってほしい。

2 校長挨拶

- ・急な会の連絡があり、それに出席したため途中参加になってしまった。
- ・西田小の取組は先進的であるがゆえに、外部には十分理解されていないと感じている。西田小の当たり前と他校の当たり前が良い意味で違ってきている。12月15日に行われた「すぎなみ教育シンポジウム」の成田先生のお話に出された質問でかみ合っていないものもあった。ESDという言葉さえ他校では十分理解されていない傾向があるので、ユネスコスクール西田小がもっと発信する使命があると思っている。
- ・西田小のトワイライトミュージアムや西田の丘フェスなどの実践は他校から驚かれる。これらは、従来の発想を転換して実現できた。他校はまだまだ従来の発想に縛られている感じがする。先ほど参加した赤十字の会でも、外部団体を入れながら、そこに地域や学校、子供が関わるようになっているのが自然になってきている。西田小の学校運営協議会は発足して1年余りだが、委員のみなさんと一緒に議論し考えながら学校運営をできていることを嬉しく思います。

3 前回の協議会記録について

- ・了承された（資料2）。

4 教育調査について

- ・「杉並区教育調査小・中学校保護者用」（資料4）に回答したのち、本調査について以下の感想が述べられた。
 - ・全般として学校が子供に理解があることが分かるし、子供報告会などを通じてユネスコスクールの取り組みは保護者にも理解されていると思う。学級の中のことに関して保護者としてどのような意見があるかは分からない。委員に見えてこない部分は分からない。
 - ・大きな取り組みのESDについては理解が深まり効果があると感じている。一方、先生と生徒の関係といった身近なものがどうなっているか知りたい。親としてはここが肝心ではないか。
 - ・質問項目24～26に関してどうなっているか分からなかった。委員の中で最も教員と接していても、先生と子供の関係、学習目的、教育の意図・目標・経営方針などは十分に分かっていないので、反省した。学校支援本部の取り組みも振り返って検討する必要があると思った。
 - ・回答は「どちらでもない」を含む5択だが、それは不要で4択が良いと思う。回答6番目の「分からない」が13項目あったので、もう少し学校の中に入らなければならないと感じた。
 - ・学校内の日常生活の部分は分からないことが多い。少年野球で接している子供たちは、西田小のことを肯定的に捉えていると思う。
 - ・「分からない」が14項目あり、分からないことが多いことが分かった。
 - ・「わからない」が9項目あり、会長としてもっと知らなければならないと思っている。「とてもそう思う」が8項目であとは「ややそう思う」であった。業務上他校のことを知っているので比較すると、西田小は授業、先生の協力姿勢、管理職との関係、新しい教育に向かう姿勢など、レベルが相当高い。杉並区全般もレベルが高い。

保護者の回答で「わからない」が多い項目について委員会に報告してほしい。

- ・肯定率について事務局から説明があった。

肯定率＝（「とてもそう思う」＋「ややそう思う」）／（回答数）。「分からない」を減らさないと肯定率は上がらない。「分からない」が多いのは低学年の中連携の項目なので、今後工夫が必要。

5 その他

- ・12月6日に行われた研究発表会への参加のお礼が述べられた。参観者570名保護者60名が参加した。多くの方が参加していただきありがとうございました。
- ・桃井第四小学校で行われた6年生全員が参加する学校運営協議会「学校を面白くする会議」について、参加した望月委員から報告があった（資料5）。

会場は体育館。6年生を5～6人の20グループに分け、各グループが大人2名を囲んで懇談し、司会者の質問に対してグループで発表し、参加者全員で共有した。子ども目線の話だが、学校をどうしたらいいかを生徒と大人が一緒に考える良い機会である。年1回あることが素晴らしい。

終了後、大人だけの振り返りの会があり、運営協議会委員だったらどのような答えが出てくるの

か、運営協議会の在り方、校庭の使い方などが話題になった。

参考のために桃四小の学校運営協議会についての紹介があった。西田小と違い、委員以外に各学年の教員やPTAなど40名ほどが参加。協議会の開催時間は18時～20時。最初の1時間30分は教員からの各種報告で情報が共有され、残りの30分が協議会委員だけの会になっている。時間外に教員を拘束するので、働き方改革に逆行するかもしれないが、「学校の様子がわからない」ことは少なくなるのではないか。

校庭の使い方も紹介された。校庭は4時まで自由に遊んでよい。水曜日だけ一旦下校してから遊びに来るが、他の曜日は授業が終わりしだい遊んで良い。大勢の生徒が校庭で遊んでいた。

出席した檜枝委員から以下の発言があった。地元の人がたくさん参加していて地域と密接な関係が感じられた。6年生にはいい思い出になると思う。年1回のイベント的だが、子供たちの声に耳を澄ませば子供たちの本音の声が聞き取れるとも思った。

- ・NPO法人が発行し区内小学生に配布されている「なみすく」今月号に西田小学校支援本部(ニシタス)が紹介されている。次回の学校運営協議会で紹介予定。
- ・成田青少年育成委員会主催の「赤鼻の先生」の講演会について目黒委員から紹介があり、参加希望者は連絡が欲しいとの発言があった。

講師：副島賢和 昭和大学准教授

日時：2019年1月29日(火) 10時から12時

場所：阿佐ヶ谷地域区民センター

6 事務連絡

- ・次回(第9回)学校運営協議会について
日時：2019年1月28日(月)16時30分から
(教育調査の学校関係者評価を行うのでPTA会長が参加する)
- ・校内研究授業について
2019年1月23日(水)